

学校法人木下学園 カナン国際教育学院

2023年度 自己点検・評価

5：達成している／4：ほぼ達成している／3：どちらともいえない／2：取り組みを検討中／1：改善が必要

1. 教育の理念・目標等

評価

1-1	学校の理念・目標や育成する人材像は明確となっているか	5
1-2	学校の理念・目標は全教職員に共有されているか	5
1-3	学校の理念・目標や育成する人材像は社会のニーズに合致しているか	5
1-4	学校の将来構想は策定しているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

2023年度は、近年多様化している留学生が持つ様々なニーズを満たし日本語学校としての責務を果たすべく教育理念の見直しを行った。また、その理念に沿って教育を遂行していくために、以前から構想していたカリキュラムの変更も行った。

我々が開校当初から掲げている「世界で活躍できる人材の育成」という根幹となる理念は変えずに、今後の教育に従事する所存である。

【新教育理念】

- 「世界で活躍できる人材の育成」を目指す。
- 日本語学習を通じて多文化共生社会に通用する人材の育成をする
- 学生の目標とする進路先合格に向けて最大限支援を行う。

この新たな教育理念を浸透させ、常に学院全体で学校理念に対する共通認識を持つために、全教職員会議や、教職員への研修の場において代表者と教務主任により理念変更の意図や目標・理念の意味について重ねて説明を行った。それだけでなく、学院内での掲示やホームページ、パンフレットでも公開をし、教職員が常に確認できる環境を創生している。

また、我々の理念はオリエンテーションの場にて、(通訳を交えて)新入生に伝える場を設けており、当校の学生は我々の理念を理解した上で授業に臨んでいる。

学校の将来構想については、中長期計画があり、各メンバーがこれを念頭に置いた上で日々の業務を行っている。進捗や変更点については全教職員会議の場において随時共有を行っている。

2023年度はグループ校が開校したことで、自校を見つめ直し、自校の強みや課題が明確になった。常に進化を求めてより良い教育にし、より良い環境を全学生・全教職員に提供すべく、教育機関としての体制を強化することを目指している。

2. 学校運営

評価

2-1	日本語教育機関の告示基準は満たしているか	5
2-2	学校の理念や目標に沿った運営方針や事業計画は策定されているか	5
2-3	組織運営や意思決定システムは整備されているか	5
2-4	人事や賃金、財務管理に関する規定は整備されているか	5
2-5	コンプライアンス体制は整備されているか	5
2-6	危機管理体制は整備されているか	5
2-7	IT化等による業務の効率化は行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

告示基準の遵守については、部長以上のボードメンバーが中心となり、常に学校全体から各部署に至るまで、厳しく確認を行っている。また、更新・変更があった際には、逐一ボードメンバー内で共有・内容精査を行い、業界内でも情報交換を行った上で、より詳細な内容を各メンバーへと共有といったフローを取っている。

組織については、トップダウンとボトムアップ両方で意思決定を行っている。緊急を要する案件については、トップダウンでの決定をし、その他は各部署にてメンバーからの意見を部長が吸い上げて反映する体制で運営している。そのため、各部署の部長・リーダーに権限移譲をし、各メンバーに指揮を取ったり、意思疎通を図ったりしている。また、行事においては部署を超えたチーム編成をしているため、横のつながり、コミュニケーションの強化に結び付いている。

各規定については、2023年度見直しを行い、時流を踏まえ本校にあった内容になるよう添削を行った。また、変更内容についても随時教職員に向けて説明会を開き、周知を図っている。

コンプライアンスについては、ボードメンバーが中心となり、各部署・各メンバーが一丸となって努めている。また、毎年内部だけでなく、外部からも講師を招き、ハラスメント研修、個人情報、情報セキュリティなどといった研修を行い、教職員のリテラシーの向上に努めている。

危機管理については、本校独自の「危機管理対応マニュアル」を作成しており、危機管理対策に活用している。また、年1度の本校独自の災害対策動画（地震編・火災編）を用いた避難訓練と、年1度の防災体験を毎年実施しており、その後の反省会の内容を元に常にアップデートを行っている。また、情報共有の面において、災害による休校などの際には、当校使用のツールを通じていち早く情報発信を行うこととしており、学生・全教職員にもそのフローを周知している。そして、近年各地で地震が発生していることを鑑み、当校では地震が発生した際の全学生・全教職員に対する安否確認体制を新たに構築した。この安否確認の方法についても、新入生のオリエンテーションの際に詳しく説明を行っている。

IT化については、近年は常に業務の効率化を目指し新たなツールなどの導入を続けてきており、工数の削減だけでなくペーパーレスにも繋がっている。また、ICT教育の一環として一部に学生がスマートフォンを使う授業を行っているため、学校内全ての場所において学生がWi-Fiに接続できる環境に整備している。今後も、IT化の導入を積極的に取り入れていきたいと考えている。

3. 教育活動

評価

3-1 教育理念に沿った教育課程(カリキュラム)は体系的に編成されているか

5

3-2 成績評価や進級、修了の判定基準は明確、且つ適切に運用されているか

5

3-3 教員の指導力(教育の質)向上のための取り組みは行っているか

5

3-4 教育課程(カリキュラム)の改善のための取り組みは行っているか

5

《現状・具体的な取り組み/課題》

本校の教育理念である「世界で活躍できる人材の育成」を目指し、初級・初中級・中級・上級の各コースで確実にステップアップできるように目標を立てている。

授業に関しては、主に課題遂行型の教授法を取り、身近なテーマから社会的なテーマまで、知識を獲得するとともに自らが運用できる能力を養う。

評価に関しては、各コースでクラスごとの復習テストと学期終了時の定期試験（筆記試験、会話試験、記述試験）を基に、学生の到達度と熟達度判定を行っている。会話試験と記述試験はルーブリック評価を採用している。

教員の質向上のための取り組みとして、定期的に講師勉強会や授業見学会を行い、教授法や学生との関わりについて積極的に意見交換をし、このときに学期末に行う授業アンケートから、学生からの声（ニーズ）も取り上げ、反映している。

また、24年度の新カリキュラムに向けて教材変更に伴う運用方法やテクニック教授を講師勉強会で実施した。

2023年度は、時代の変化に伴い、教育理念の一部見直しを行った。

今回変更した教育理念は、「多文化社会で通用する人材の育成」である。

このことに付随し、今回変更した理念に基づいたカリキュラムの構築を行った。

このカリキュラムでは、22年度に引き続き、行動中心アプローチに基づいた学びを取り入れ、日本語運用能力を向上を目指している。それに加え、新しい理念である「多文化共生社会で通用する人材の基盤づくり」のもと、教室内の他文化を知る機会、グループ間で協力して行う活動の場、プレゼンテーションの時間を大幅に取り入れた。新カリキュラム実施に向けて新教材を導入した試行クラスを開講し、問題なく学生の成績向上に繋がることが検証できた。また、運用能力だけでなく言語知識を測る上で、宿題・試験等全般の見直しを行い、24年度から施行する予定である。

学生の日本語知識・運用能力の向上、進路先への合格、進路先でも多文化社会で通用する人材の基盤づくりができるよう注力している。

4. 学修成果

評価

4-1	日本語能力向上のための取り組み、把握は適切に行っているか	5
4-2	各種試験の合格率或いは成績向上のための指導体制は整っているか	5
4-3	進路が決定するまでの指導、把握は適切に行っているか。	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

1. 日本語能力向上のための取り組み、把握

通常の授業ではその日の課題が終わり次第、学習者自身が自分の評価を行うことで、セルフチェックができるようにしている。また、一定期間ごとに確認テストを実施し、試験での学習状況の確認も行っている。

学期末の定期試験では、教科ごとの成績と講師からの評価が記載されている通知表を配布し、各自弱点の把握に役立てている。今年度より、パフォーマンス評価（会話・作文）を取り入れ、運用能力の確認も行っている。

以上のように、言語知識だけでなく運用面でも、日本語能力の向上につながるような取り組みを行っている。

2. 成績向上のための指導体制

成績向上のために、学期ごとに学生アンケートを実施し、成績が伸び悩む学生や学習面で課題を抱えている学生に対して定期的に個人面談を実施し、フォローをしている。

3. 卒業が決定するまでの指導体制、把握

担任・副担任の2名体制で進学面談を随時行い、志望校選定・オープンキャンパス参加・出願書類準備・志望理由書作成・面接・試験対策などの一連の流れをサポートしている。

面談内容は、面談記録シートに記入し、進捗は毎週の部MTGで確認している。問題等あった場合は担当教員だけでなく、部全体でのフォローを行っている。

24年度はあらゆる進路先に向けてのサポートができるよう、体制を整えている。

5. 生徒支援

評価

5-1	学習や生活等の相談に対する支援体制は整備されているか	5
5-2	学生の身心の管理、事故、怪我等が起きた際の体制は整っているか	5
5-3	日本での生活の指導や支援、犯罪に係る防止教育は行っているか	5
5-4	防災や緊急時における体制が整備されているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

入学時にオリエンテーションを実施。中国・ベトナム・英語圏など、職員や在校生による通訳を入れ、新入生ハンドブック（日本語・英語語・繁体字・簡体字・ベトナム語翻訳あり）を使用し、生活における注意点などの説明を行っている。さらに、東京都青少年・治安対策本部より留学生向けの注意説明会の実施、必要に応じて警察署からの指導して頂くことで、学生が安心して留学生生活を始められるようにサポートを行っている。

緊急による学生の健康問題や事故などにおいて、問題が起きた際には職員が即座に学生や機関と情報共有を行い、その対応に努めた。

毎日の出席確認の際に、学生の小さな変化をとらえ、できる限り問題が小さなうちに対処できるように努めている。その他にも、年4回の学生向け長期休みの注意説明会を通じて、出席率、アルバイト、自転車交通ルール、生活マナーなどをテーマとして、しっかりと学生に指導している。さらには、担任を中心に母国語を話せる職員が通訳に入って各学生と面談を行い、出席率の低下やトラブルに巻き込まれることがないよう都度指導を行っている。また、学校のお知らせや注意喚起は学生管理システムを通じて徹底的に情報を共有している。

防災については、危機管理対応マニュアルを作成し、それに基づいて、年に2度全学生を対象として避難訓練等の実施することで、日頃より緊急における体制を整備している。

6. 教育環境

評価

6-1 学校の施設・設備が十分且つ安全に整備されているか

5

6-2 実際に使用している教材は適切であるか

5

6-3 学習効率を図るための環境整備はなされているか

5

《現状・具体的な取り組み／課題》

校舎の老朽化が目立ってきており、定期的に設備の点検と修繕を実施している。教室・廊下の明るさを確保するため壁と廊下の塗り替えを実施した。次年度は汚れが目立つ教室の床を清掃しやすいものに全て張り替え、階段の電灯を蛍光灯からLEDに付け替えるなど、SDGsを意識した改修も実施予定。また校舎買取時から屋上に設置されていた未使用の古い設備についても、破損や落下、また国の指定産業廃棄物となるなど危険性があるため撤去を行うよう予算に組み込んで対応している。

学期ごとに学生向けにその学期で使用した教材が適切かアンケートをとり、調査している。適切でない教材や成績が伸び悩むクラスに関しては、検討の上、適宜教材変更もを行っている。

また、教材研究はカリキュラム・教材係により年間を通して実施している。教員室の教材も随時入替を行っている。今年度はカリキュラム改訂に伴い、使用テキストを変更。24年度4月生から適応する。

7. 入学者の募集

評価

7-1 入学者の募集活動、入学選考は適正に行っているか

5

7-2 募集活動の際に学校情報は正確に伝えられているか

5

7-3 授業料は適切であるか

5

7-4 定員数に応じた募集活動は行っているか

5

《現状・具体的な取り組み／課題》

留学希望者全員に対して、オンライン面談で入学者の選抜を行なっている。また23年度より出張も再開され、一部現地での対面式の入学選抜の面談も行った。

2023年度募集活動は、オンラインと現地へ直接出向く両方で仲介や留学希望者と十分な時間をとって正しく学校情報を提供している。また、授業料についても募集要項・パンフレットを提示し、毎度必ず説明を行なっている。

学生在籍人数については毎度会議においても確認し、定員数を意識し、より厳正に学生を選抜し、適切な募集活動を行った。

8. 財務

評価

8-1	中長期的に財務基盤は安定しているか	4
8-2	予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	5
8-3	財務について、会計監査は適切に行っているか	5
8-4	財務情報の公開の体制は整っているか	3

《現状・具体的な取り組み／課題》

予算・収支については、23年度からより正確に予実管理と実情の把握を行う目的で、各担当部署からの意見をもとに各科目ごとに分けた詳細な予算立てを行い、月次で実績と乖離がないか追っていく形に変更。この取り組みで着地した23年度の実績値を元に更に精緻な予算組ができていく形に改善できた。
財務情報の公開については、この予算実績を元に公開に必要な項目を整理して開示に向けて進める予定である。

9. 法令遵守

評価

9-1	各種法令等の遵守と、適切な運営はされているか	5
9-2	個人情報の保護の取り組みは行っているか	5
9-3	自己点検・評価を実施・改善は行っているか	5
9-4	自己点検・評価の公開は行っているか	5
9-5	関係省庁への届出、報告を遅滞なく行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

本校は日本語教育機関として、引き続き法務省の告示基準、文科省（東京都）の設置基準を満たしており、また、法務省からは2005年以降適正校としての認定を継続して受けている。今年度も適正校の認定を頂き19年連続での認定となった。

また、新たな制度「認定日本語教育機関」について申請に関わる勉強会に責任者が参加するなど、施行へ向けた準備を整えている。

個人情報保護について、教職員においては人事労務関連、また学生の申請書関連もGoogleFormでの申請へ徐々に移行するなどペーパーレス化を推進することでリスクの低減につとめている。24年度は文書保護規程の見直しも実施予定。

自己点検・評価については、2017年度より実施・改善を行っており、ホームページ上でも情報の公開を行っている。

日本語教育機関に係る各種変更の届出、私学行政に係る届出においても遅滞なく実施している。2023年度は「法務省告示をもって定める日本語教育機関における教育に関する告示基準定期点検報告書」についても実施、報告済みである。

2022年度に取得した「ISO29991:2020」の認証について、2023年度の定期審査も不適合・オブザベーションともに無しという結果で問題なく終了しており、第三者機関から正式に国際的な基準に適合する質の学習サービス提供ができていけると言える。審査時のアドバイスを参考にさらに各部署における改善活動を進めていく予定である。

10. 地域貢献・社会貢献

評価

10-1	学校の資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献は行っているか	5
10-2	生徒に向けてボランティア活動への奨励・支援は行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

2023年度は、区が主催する二つの区民まつりに参加し、教職員だけでなく当校の留学生もイベントにて司会・通訳や、出店をする形でボランティア活動に携わった。これ以外にも、複数の地域のボランティア団体とも連携をし、留学生と地域の方々が交流するイベントを共同で企画し開催した。

留学生たちは、学んだ日本語を使って楽しみながら地元の方々と触れ合うことで貴重な経験ができ、地域の方々に対しては、イベントを通じて日本語学校で勉強する「留学生」という存在を周知してもらい、多文化共生に向けた理解の情勢に貢献できたと感じている。

今後も継続して区や地域のボランティア団体と連携を深め、学校のイベントのとしてこのような地域・社会貢献に繋がるボランティアを行い、多文化共生の理解を深めていきたいと考えている。

《総括》

2023年度は、カナングループにおけるミッション・ビジョン・バリューを新たに策定したことにより、全教職員が学生に教育を提供する上で根幹となる意識や指針がより明確になった。

今後はこのMVVを胸に、当校で掲げる教育理念の達成を目指して全教職員で取り組んでいく。

【ミッション】

日本語力向上と共に、人間力（EQ）の向上が提供できるよう、より優れた教育サービスを常に探求し、学習者の豊かな人生の創生に寄与する

【ビジョン】

カナンに関わる全ての方が幸せになる

【バリュー】

C CHALLENGE（挑戦）：

良い学校づくり、教育の質向上のため、絶えず進化を続ける。

A AMBITON（大志）：

ミッションに到達できるよう個々の能力を最大限に発揮する。

N NEW（新たなモノ・コト）：

積極的な新たなアイデア・学び方を取り入れる。

A ACTION（行動）：

目標を実現するため、主体的にかつ迅速に行動し続ける。

A ACHIVEMENT（達成）：

カナンに関する全ての人々が到達したいと考えている場所に達することができるよう、最大限の支援を行う。

N NEXUS（つながり）：

カナンに関わる全学生、全教職員及び様々なステークホルダーとの協力・コミュニケーションを重視し、有益な関係を構築する。

2023年度を通じて、カナングループにとっても、当校にとっても、さらに成長できた一年であったと感じている。

近年、日本語学校が微増を続ける中で、「留学生に選ばれる学校」であり続けるためには、カナンの特色を磨き、アピールしていくことが必要不可欠であるため、2024年度も引き続き、組織力・体制強化を進めていくと同時に、より優れた教育を探求し、留学生に提供し続けることを通じて、「留学生に選ばれる学校」となるだけでなく、「教職員に選ばれる学校」となるべく、教職員一丸となって良い学校づくりに尽力していく所存である。